6 阪神大水害

昭和９年の「室戸台風」による災害が人びとの記憶から消え去らない13年に、阪神地方は空前の大水害に見舞われました。６月28日から降り出した雨が７月５日には最大の雨量（１日326ミリ）となり、山津波が押し寄せ、芦屋川、高座川、宮川などが氾らんして、精道村内は泥海と化してしまいました。

阪神大水害で泥水に埋まった国鉄線路

〈村内の被害状況〉
死者３人、重傷者２人、家屋流出14戸、全壊14戸、半壊111戸、床上浸水790戸、床下浸水1,458戸、橋梁流出６、破損８、道路堤防の破損決壊10。

業平橋付近のようす　このあたりのようすは谷崎潤一郎の小説『細雪』に迫真の描写となって紹介されている。

傾いてしまった蔵　国鉄芦屋駅北付近

阪急芦屋川駅付近の惨状　激流は、阪急芦屋川駅の東方のガード下を南下して、付近一帯に被害を与え、国鉄線路上にまで大量の土砂を運んだ。

阪急芦屋川駅北側　土砂の流出を土のうを積んで防ぐ作業をする人びと。

復旧工事　「７月６日　芦屋川土砂取除ニ消防組・青年団・人夫235名出動」(『水害日誌』昭和13年７月)